

I 神川 富山大学理事・副学長

- ① 生徒数が減少し、学校規模が小さくなると、教員の配置数や開設科目数、部活動数なども小さくなることから、検討委員会の委員全員が、教育の質を保証していくためには、一定の学校規模が必要との意見であった。
- ② そこで、県民や教員を対象としたアンケート結果、前期再編の評価結果、大半の県が4学級から8学級が望ましいとしている全国調査結果などを踏まえ、1学年4から8学級規模の学校を配置することが望ましいとした。
- ③ そして、再編の進め方については、平成30年からの生徒数の減少や平成32年からの急減を十分踏まえながら、段階的かつ着実に進めていくことが望ましいとしている。
- ④ 一方で、職業科単独校や地理的な制約がある学校など、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できる特別な事情がある場合は、例外的に3学級以下であっても配置することが望ましいとしている。
- ⑤ また、中高一貫校については、設置に積極的な意見もある一方で、課題が多いという懸念もあり、消極的な意見もあったことから、引き続き慎重に検討する必要があるとしている。

II 高橋 高岡市長

- ① 子ども達の多様な個性に応じた教育、一人ひとりの個性を伸ばす教育、多様な将来選択を認めていく教育が必要だが、一定の学校規模を確保すればよいという考え方が先行しているのではないかと懸念している。
- ② 前期の高校再編の総括が十分でない中、あるいは、自治体を預かる者が加わって統括していない中、さらなる再編に動こうとすることは、由々しきものと感じている。
- ③ 地方創生には、各高校の活動が大きく貢献しており、現在の高校群が有する多様な機能をこれまでどおり果たすことを望んでいる。
- ④ 新しい教育体制や環境のあり方について幅広い検討を望んでおり、例えば中高一貫校については多くの課題はあるが、大きな意義もあり、この選択肢も否定されるものではない。
- ⑤ また、高校の配置については、例えば、県の西部圏域において、公共交通機関を利用して高岡市に多くの学生が集まっているように、一定の通学可能な地理的状況の中で様々な選択ができることが重要である。

III 中尾 富山経済同友会特別顧問

- ① 高校再編について、地域活性化という言葉が盛んに出るが、教育を考えるとき、地域をどうするかという問題は二の次であり、あくまでも教育ということを考えて進めてもらいたい。
- ② 今後、生徒数が減少することは明確であり、一定の条件を満たさない高校については、統合を図ってもらいたい。それは教育の効率化ということではなく、より多くの中で生徒が育っていくという教育の観点からである。
- ③ その際には、普通科と職業科が一緒になった総合高校への統合も一つの案として検討してもらいたい。
- ④ 特別な目的、性格を持っている高校については、別の高校の一つのクラスとして位置付けていくことも考えてもいいのではないかと。生徒により広い交流の場を与えるべきである。
- ⑤ 地域の感情や意見を無視するのではなく、聞いた上で、しかし、「高校の向かうべき方向はこうだ」ということを強く訴え、例外なく実施してもらいたい。
それが子ども達のためになり、ひいては富山県のためになっていく。

IV 高木 富山県商工会議所連合会会長

- ① 高校再編については、地域の方々のことを考えると今のままがベストだが、地方の限界集落化が進行し、生徒数が減少することを踏まえると、相当のコストを誰が負担するかという経済的合理性から、止むを得ない。
- ② また、最低限の教育効果や部活動が確保できないという現実を考えれば、やはり高校再編も止むなしではないか。
- ③ 教育環境の維持、県内企業の担い手確保・育成のため、各地域も、「こうあるべきだ、このようにして欲しい」ということばかりでなく、どのような協力・支援をし、汗を流すのかという観点も大事である。
- ④ 教育効果や部活動を確保するには、中高一貫校や、個々の授業などはテレビで行い、試験や運動会ときは集まるという分校化も選択肢になりうる。
- ⑤ しかしながら、いずれにしても高校の統廃合は止むを得ない。
団塊の世代に比べて、生徒数が3分の1に減っているという現実を直視して、その上でどう考えていくかということが大事である。

有識者の意見概要(平成28年度第3回総合教育会議(9/28))

I 耳塚 お茶の水女子大学教授

- ① 地理的に見た場合、富山県は、小規模校を残さなければ高校教育の機会を提供することができない地域が相対的に少ない。
- ② この地理的な条件を活かして、高校教育の質を向上させる施策を打つべきである。
- ③ 高校教育の質を維持し、向上させるためには、一定の学校規模が必要であり、5学級以上の学校規模の方が質の維持向上が期待できる。
小規模校を残しても質的に高校教育といえる教育の機会を提供したことにはならない。
- ④ なお、地方創生に高校が効果的に機能することが十分期待できる場合は、小規模校を残す選択があるが、例外中の例外に限るべきである。
- ⑤ また、富山県の探究科学科での取組みの質は、全国的に見ても相当レベルが高く、この卓越した取組みを全県・全国に普及していく方策についても考えてもらいたい。

II 伊東 上市町長

- ① 10年先を見据えて、効率と公平のバランスをとりながら、既成概念を離れて対処してもらいたい。
- ② 学校にとって致命傷になることは避けなければならないが、多少部活動に問題があったとしても、致命傷にならない限り小規模校でもかまわない。
- ③ また、富山県は交通の便がよく、どの高校へも通学が可能であることから、小規模校を廃止するというのではなく、歴史の浅い大きな学校を減らしたほうが小規模校を救うことができる。
- ④ 県内の高校は、成績面での格付けができており、このことが今日的課題であることもしっかり頭の中に置いてもらいたい。
ただ形だけ学校の数をそろえても問題がある。
- ⑤ 職業科については、実習が十分こなせる教育をして欲しい。

III 稲垣 富山県経営者協会前会長

- ① 高校生には多様な経験や教育に触れてもらうことが大切であり、小規模校では科目・部活動に限られ、友人との接点も少ないことから、ある程度の規模を確保してあげることがすごく大切である。
- ② また、高校は職業意識を持ったり、再チャレンジできる場であるべきで、そのためには教員が生徒と向き合う時間が必要であるが、これも規模の確保により解決すべきである。
- ③ 一方で、トップラインを押し上げていく教育が必要であり、例えば中学受験を前提とした中高一貫校を高岡で検討いただけるとありがたい。
- ④ 経済界の立場から言うと、富山で育った子ども達全員が富山で仕事をしてもらいたい。
- ⑤ なお、高校がなくなることは、地域にとって大きなインパクトになることから、跡地利用については、子ども達が充実した活動ができる設備・施設を考えてもらいたい。

IV 米屋 富山県PTA連合会会長

- ① 統合後の滑川高校は、旧の滑川高校と海洋高校の良さが引き出され、学校のイメージは格段に良くなっており、また、生徒同士が学科の枠を超えて切磋琢磨する機会が増えている。
- ② 高校の再編統合が余儀なくされるということであれば、地域に対して十分配慮した上で実施しなくてはならない。
- ③ また、中高一貫校という形での存続ということも十分検討する必要がある。
- ④ さらに、職業系、特別支援、定時制・通信制の学校の再編統合は、慎重に検討すべきである。
- ⑤ 今後いろいろな形で検討が進んでいくと思うが、主役は子ども達であることを忘れてはならない。